

# 大学の世界展開力強化事業 構想概要 筑波大学

## 【構想の名称】(タイプB-Ⅱ)

人社系グローバル人材養成のための東アジア・欧州協働教育推進プログラム

## 【構想の概要】

学士課程から博士課程まで一貫した東アジア・欧州協働教育プログラムを構築し、国際社会の中で日本の役割を発信する表現力、異なる価値観をまとめる先導力、東アジア・欧州が共同して問題解決に取り組む国際協調力、国際社会の現場で活躍するための行動力を総合的に涵養する。

## ■ プログラムの目的・養成する人材像

(リュブリャナ大学での日本語教育実習)

### 現代日本社会からの発信

「現代日本」をテーマに日欧韓の大学間パートナーシップを強化、日欧韓の成熟社会の持続的発展と東アジアの安定に貢献できる次世代のグローバルリーダー人材養成を行う。



## ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成

本事業では、各レベルの教育組織で次の3つのプログラムによる大学間交流を一貫したテーマのもとに実施することにより、国際的通用性の高い次世代の人材を養成する。

### 1. 《学士レベル》日本語・日本文化コミュニケーション養成(履修証明)プログラム

本学日本語・日本文化学類とリュブリャナ大学(スロベニア)・モスクワ市立教育大学(ロシア)・ボン大学(ドイツ)・ヴェネツィア大学(イタリア)との協働教育により、世界における日本文化・社会の特色を発信し、交流するスキルを鍛え、国際交渉力の基礎を確立する。

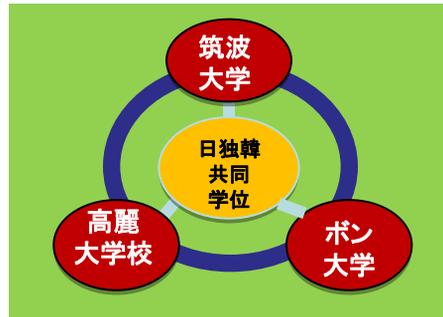
### 2. 《修士レベル》日独韓共同学位(デュアルディグリー)プログラム

国際協調力の涵養を重点化し、本学人文社会科学部とボン大学(ドイツ)・高麗大学校(韓国)との協働教育により、東アジアと欧州の複眼的視野を持ち、異なるアイデンティティを評価できる人材を養成する。日独韓1期各6名のプログラム生が1学期ごとに日本・ドイツ・韓国を移動して各大学のプログラム授業を受講し、修士学位論文を提出することで、母校と希望する他の1大学からの学位も加えたデュアルディグリーを取得する。

### 3. 《博士レベル》現代日本国際比較研究(履修証明)プログラム

「現代日本」の諸問題に国際比較の視野から取り組み、本学人文社会科学部とボン大学(ドイツ)・ベルリン自由大学(ドイツ)・フランシュコンテ大学(フランス)・リュブリャナ大学(スロベニア)・高麗大学校(韓国)並びにドイツ学術交流会(DAAD)との協働教育により、欧州と国際社会に問題解決の提案ができるグローバルリーダー人材を養成する。

<日独韓共同学位プログラム>



## ■ 教育内容の可視化・成果の普及

### 1. 多様な手段によるプログラム紹介と成果報告

本事業に加わる各教育組織の既存のHPに加え、本事業独自のウェブサイトを立て、多言語によるプログラムの紹介・学生募集・実施状況報告・電子ジャーナルによる成果報告を実施する。また、各レベルのプログラムごとにパンフレットを発行するとともに年4回ニューズレターを紙媒体とウェブ上で刊行する。

### 2. 筑波大学ヨーロッパ事務所の活用

本学の対欧州交流拠点であるボン事務所を本事業におけるサテライトオフィスとして活用し、現地での広報活動、留学予備軍確保のための短期集中セミナーの実施、成果普及のための情報発信を行う。

## ■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

### 1. 運営委員会による統一的サポート

派遣する日本人学生に対しては、本事業全体を統括する運営委員会が留学先のアカデミックカレンダーや単位制度の相違について十分な事前指導を行う。また、各教育組織と連携をとって留学中の状況を把握し、必要なサポートを提供する。

### 2. 受入留学生に対する語学支援とキャリアパス形成支援

受入留学生に対しても運営委員会が留学生センター・各教育組織と連携して統一的にサポートする。チューターによる生活支援、日本語学習支援を行い、国際交渉力強化プログラム(英語コース)がキャリアパス形成支援教育を提供する。

## ■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

### 1. 日本人学生の派遣

日本語・日本文化コミュニケーション養成プログラムでは欧州4大学に年間6名を1ヶ月程度派遣する。日独韓共同学位プログラムでは1期6名の学生が修士2年間の間にボン大学・高麗大学校・筑波大学の間を移動しつつ学ぶ。現代日本国際比較研究プログラムでは年間5名を欧・韓の各大学に1年間派遣する。

### 2. 外国人留学生の受入れ

年間を通し、学士レベルで欧州から6名、修士レベルでドイツ・韓国から各12名(1年次生・2年次生)、博士レベルで欧州・韓国から5名を受入れる。

	H23	H24	H25	H26	H27
学生の派遣	2	9	17	23	23
学生の受入	0	9	23	23	23

# 大学の世界展開力強化事業 取組実績 筑波大学

## 【構想の名称】(タイプB-Ⅱ)

人社系グローバル人材養成のための東アジア・欧州協働教育推進プログラム。

## 【構想の概要】

学士課程から博士課程まで一貫した東アジア・欧州協働教育プログラムを構築し、国際社会の中で日本の役割を発信する表現力、異なる価値観をまとめる先導力、東アジア・欧州が共同して問題解決に取り組む国際協調力、国際社会の現場で活躍するための行動力を総合的に涵養する。

## ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

〈オープニングフォーラム〉

### 1. 《学士レベル》日本語・日本文化コミュニケーター養成(履修証明)プログラム

2月13日～15日 モスクワ市立教育大学のストリジャック准教授／リュブリャナ大学の重盛講師、ゴリアンツ文学部副部長、カ・フォスカリ大学のトッリーニ准教授と、JLCCプログラムについてうち合わせ。(於筑波大学)

3月13日～18日 リュブリャナ大学の重盛講師、文学部副部長ゴリアンツ先生とJLCC授業の開設について(於リュブリャナ大学)、カ・フォスカリ大学のトッリーニ准教授、同大学のカルヴェッティ教授とJLCCプログラムについて(於ウィーン大学)打ち合わせ。



### 2. 《修士レベル》日独韓共同修士(デュアルディグリー)プログラム

2013年度からのプログラム開始に向けて必要な3大学間協定や事務手続きの準備中。ボン大学のツェルナー教授、高麗大学のパク教授、チェ教授らと実務者会談をたちあげ、カリキュラムや日程などの細部を調整。3月2日～5日には参加者募集・広報活動を兼ね、日独韓の約20名ほどの学生とともに、公開準備セミナーTEACH-Interuniseminarをボンで開催。

### 3. 《博士レベル》現代日本国際比較研究(履修証明)プログラム

2月15日、フランシュコンテ大学マルタン人文社会科学部研究科長、マリアージュ人文学部学部長とCOMPAS-CJSプログラムについて打ち合わせ。(於筑波大学)

## ■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

〈リュブリャナ大学での日本語教育実習〉

### 【オープニングフォーラム】



平成24年2月14日筑波大学においてオープニングフォーラムを開催。連携大学であるリュブリャナ大学、モスクワ市立大学、ボン大学、ベルリン自由大学、高麗大学、フランシュコンテ大学、カフォスカリ大学より代表者を招聘し、各大学の連携構想についてのプレゼンテーションを実施。

### 【日本語・日本文化コミュニケーター養成プログラム学生派遣】

平成24年3月9日～29日、2名の学生をリュブリャナ大学に派遣。現地で2名のリュブリャナ大学生と共同研究を開始。スロベニア語講座への出席、リュブリャナ大学での研究発表、文化交流、日本文化紹介、また民族学博物館、国立美術館などを見学。

## ■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

### ○ 日本人学生の派遣

日本語・日本文化コミュニケーター養成プログラムにおいて、平成24年3月9～29日リュブリャナ大学(スロベニア)へ2名の学生を派遣。

### ○ 外国人留学生の受入れ

外国人留学生の受入は平成24年度開始。

	H23	H24	H25	H26	H27
学生の派遣	2	9	17	23	23
学生の受入	0	9	23	23	23

注)H23は実績、H24以降は計画。

## ■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

### ○ 派遣する日本人学生へのサポート

派遣する日本人学生に対して、留学先のアカデミックカレンダーや単位制度の相違について十分な事前指導や、各教育組織と連携をとって留学中の状況を把握し、必要なサポートの提供を実施。

### ○ 受入留学生に対する語学支援とキャリアパス形成支援

受入留学生開始に向けて、留学生センター・各教育組織と連携した統一的サポート体制の調整、生活支援・日本語学習支援を行うチューター養成、国際交渉力強化プログラム(英語コース)におけるキャリアパス形成支援教育の提供を準備中。

## ■ 教育内容の可視化・成果の普及

### パンフレット作成

全体プログラム概要および各課程プログラムの履修カリキュラムについてのパンフレットを作成し、本事業に加わる各教育組織に配布。

### ホームページ作成

本事業独自のウェブサイトを立ち上げ、全体プログラムおよび各課程プログラムのHPデザインを決定。これまでの取組や実施した交流プログラム公開に向けて準備中。

# 大学の世界展開力強化事業 取組概要 筑波大学

## 【構想の名称】(選定年度23年度(タイプB-Ⅱ))

人系グローバル人材養成のための東アジア・欧州協働教育推進プログラム

## 【プログラムの目的・養成する人材像】

「現代日本」をテーマに日欧韓の大学間パートナーシップを強化、日欧韓の成熟社会の持続的発展と東アジアの安定に貢献できる次世代のグローバルリーダー人材養成を行う。

## 【構想の概要】

学士課程から博士課程まで一貫した東アジア・欧州協働教育プログラムを構築し、国際社会の中で日本の役割を発信する表現力、異なる価値観をまとめる先導力、東アジア・欧州が共同して問題解決に取り組む国際協調力、国際社会の現場で活躍するための行動力を総合的に涵養する。

## ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

### 1. 《学士レベル》日本語・日本文化コミュニケーター養成(履修証明)プログラム(JLCC)

新たにモスクワ市立教育大学とのプログラムを開始。集中講義、学生の派遣・受入を行った。筑波英語模擬国連に参加し、国際交渉の実践を学んだ。ビデオ会議を通じ第1期生の連携大学合同成果報告会が行われた(H25.2)。

### 2. 《修士レベル》日独韓共同修士(デュアルディグリー)プログラム(TEACH)

2013年度からのプログラム開始に向けて3大学間協定・事務手続きなどの調整を進めた結果、2013年度よりプログラムを開始するに至った。

### 3. 《博士レベル》現代日本国際比較研究(履修証明)プログラム(COMPAS-CJS)

ヨーロッパ4提携大学より計5名の学生を受け入れ、筑波大生とともに人文学・社会科学のテーマを広く扱う講義を履修した。また、筑波大生5名をヨーロッパへ派遣し、日欧の国際比較研究を進めた。

(筑波英語模擬国連)



## ■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

< 2nd International Forum in Venice, Italy >



### 【日本文化発信交流プログラム】

カフオスカリ大学での日本文化紹介ワークショップ・日本学共同研究フォーラムの開催(H24.10)、フランシュコンテ大学での日本文化セミナーの開催(H25.3)

### 【日独韓学術交流プログラム】

TEACH公開セミナーの開催(H24.7, H25.3)

### 【欧州・東アジア学術ネットワーク推進プログラム】

ヴェネチアフォーラム(H24.10)、京都フォーラム(H25.2)、パリフォーラム(H25.3)

### 【テレビ会議システムを活用した多国間合同セミナー】

筑波大学・カフオスカリ大学・リュブリャナ大学・ボン大学をつないだ遠隔授業

## ■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

### 1. 日本人学生の派遣

JLCCにおいて、リュブリャナ大学へ2名(H25.3)、モスクワ市立教育大学へ2名(H24.10)の学生を派遣。COMPAS-CJSでは、リュブリャナ大学、ボン大学、ベルリン自由大学、フランシュコンテ大学へ計5名の学生を派遣した(H24.12-H25.2)。

### 2. 外国人留学生の受入れ

JLCCにおいて、リュブリャナ大学より4名(H24.7)、モスクワ市立教育大学より2名(H25.1)の学生を受け入れた。COMPAS-CJSでは、リュブリャナ大学、ボン大学、ベルリン自由大学、フランシュコンテ大学より計5名の学生を受け入れた(H24.9-11)。

	H23	H24	H25	H26	H27
学生の派遣	2	9	17	23	23
学生の受入	0	11	23	23	23

注)H23・H24は実績、H25以降は計画。

## ■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

### 1. 派遣する日本人学生へのサポート

派遣する日本人学生に対して、留学先のアカデミックカレンダーや単位制度の相違について十分な事前指導や、各教育組織と連携をとって留学中の状況を把握し、必要なサポートを提供。

### 2. 受入留学生に対する語学支援とキャリアパス形成支援

留学生受入開始に向けて、留学生センター・各教育組織と連携した統一的サポート体制の調整、生活支援・日本語学習支援を行うチューター養成、人文社会科学研究科におけるキャリアパス形成支援教育を提供。

## ■ 教育内容の可視化・成果の普及

### 1. パンフレット作成

全体プログラム概要および各課程プログラムの履修カリキュラムについてのパンフレットを作成し、本事業に加わる各教育組織に配布、学外へも配布し関係機関での周知を図った。

### 2. ホームページ作成

本事業独自のウェブサイト立ち上げ、全体プログラムおよび各課程プログラムのデザインを決定。パンフレットとあわせ、これまでの取組や実施した交流プログラムを日本語・英語にて公開中(<http://trans.hass.tsukuba.ac.jp/>)。

### 3. プログラム普及ビデオの作成

作成したホームページコンテンツの充実を図るため、交流プログラムやセミナーの実施状況を編集した普及ビデオを作成。プログラム内容の紹介だけでなく、プログラム生のインタビューなども盛り込み、本事業ホームページなどで公開中。

# 大学の世界展開力強化事業 取組概要 筑波大学

【構想の名称】(選定年度23年度(タイプB-Ⅱ))

人社系グローバル人材養成のための東アジア・欧州協働教育推進プログラム

【プログラムの目的・養成する人材像】

「現代日本」をテーマに日欧韓の大学間パートナーシップを強化、日欧韓の成熟社会の持続的発展と東アジアの安定に貢献できる次世代のグローバルリーダー人材養成を行う。

【構想の概要】

学士課程から博士課程まで一貫した東アジア・欧州協働教育プログラムを構築し、国際社会の中で日本の役割を発信する表現力、異なる価値観をまとめる先導力、東アジア・欧州が共同して問題解決に取り組む国際協調力、国際社会の現場で活躍するための行動力を総合的に涵養する。

## ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

### 1. 《学士レベル》日本語・日本文化コミュニケーター養成(履修証明)プログラム(JLCC)

新たにカフォスカリ大学とのプログラムを開始。学生を派遣、受入れ、集中講義やインターンシップを通して1年間の共同研究を行った。筑波英語模擬国連に参加し、国際システムと国際交渉力を実践的に学んだ。ビデオ会議を通じ連携大学との合同成果報告会を行った。

### 2. 《修士レベル》日独韓共同修士(デュアルディグリー)プログラム(TEACH)

日独韓の3大学の学生が揃って完全な形でプログラムがスタートした。ボン大学および筑波大学で開所式を行い、特別講演や公開セミナーを実施した。

### 3. 《博士レベル》現代日本国際比較研究(履修証明)プログラム(COMPAS - CJS)

ヨーロッパ4大学連携大学より計5名の学生を受入れ、筑波大生とともに人文学・社会科学に関する講義を履修した。それぞれの研究テーマに応じて、美術館訪問などの実地研修や、外部教員からの指導等も組み入れた。また、筑波大生5名をヨーロッパへ派遣し、日欧の国際比較研究を進めた。

## ■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

〈欧州・東アジア協働教育プラットフォーム形成フォーラム〉

〈TEACH開所式〉



### 【日本文化発信交流プログラム】

被爆者証言の世界化ネットワーク(NET-GTAS)設立記念イベントへの参加(H26.1)、リュブリャナフォーラム(H26.8)

### 【日独韓学術交流プログラム】

TEACH公開セミナーの開催(H25. 7、H26.3、H26. 7、H27. 3)

### 【欧州・東アジア学術ネットワーク推進プログラム】

ヴェネチアフォーラム(H25. 9)、パリフォーラム(H27. 3)

## ■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

### 1. 日本人学生の派遣

JLCCにおいて、リュブリャナ大学へ2名、モスクワ市立教育大学へ2名、カ・フォスカリ大学へ2名の学生を派遣。TEACHでは、ボン大学、高麗大学へ計7名の学生を派遣。COMPAS-CJSは、リュブリャナ大学、ボン大学、ベルリン自由大学、フランシュコンテ大学へ計5名の学生を派遣した。

### 2. 外国人留学生の受入れ

JLCCはリュブリャナ大学2名、モスクワ市立教育大学2名、カ・フォスカリ大学2名の学生を受入れた。TEACHは、ボン大学、高麗大学計7名の学生を受入れたCOMPAS - CJSは、リュブリャナ大学、ボン大学、ベルリン自由大学、フランシュコンテ大学計5名の学生を受入れた。

	H23	H24	H25	H26	H27
学生の派遣	2	9	18	23	23
学生の受入	0	11	18	23	23

注)H23~H25は実績、H26以降は計画。

## ■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

### 1. 派遣する日本人へのサポート

派遣する日本人学生に対して、留学先のアカデミックカレンダーや単位制度の相違について十分な事前指導や各教育組織と連携をとって留学中の状況を把握し、必要なサポートを行う。

### 2. 受入れ留学生に対する語学支援とキャリアパス形成支援

留学生受入れ開始に向けて、グローバル・コモンズとの連携強化したサポートを連携を行い、学生ビザや保険に関する生活支援、日本語補講等の学習支援を提供、人文社会科学研究科におけるキャリアパス形成支援教育を実施している。

## ■ 教育内容の可視化・成果の普及

### 1. プログラム内容の一般公開

筑波英語模擬国連の一般公開授業や近隣高校へのプログラム実施内容の公開を行い、学外機関との連携強化につとめ、プログラムの充実と関係機関への周知を図った。

### 2. ホームページの更新

随時、日本語・英語によるホームページ更新を通じて、各プログラムの内容や実施した国際交流について公開し、プログラム普及につとめている。

【構想の名称】(選定年度23年度(タイプB-Ⅱ))

人社系グローバル人材養成のための東アジア・欧州協働教育推進プログラム

【プログラムの目的・養成する人材像】

「現代日本」をテーマに日欧韓の大学間パートナーシップを強化、日欧韓の成熟社会の持続的発展と東アジアの安定に貢献できる次世代のグローバルリーダー人材養成を行う。

【構想の概要】

学士課程から博士課程まで一貫した東アジア・欧州協働教育プログラムを構築し、国際社会の中で日本の役割を発信する表現力、異なる価値観をまとめる先導力、東アジア・欧州が共同して問題解決に取り組む国際協調力、国際社会の現場で活躍するための行動力を総合的に涵養する。

## ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

### 1. 《学士レベル》日本語・日本文化コミュニケーター養成(履修証明)プログラム(JLCC)

新たにボン大学とのプログラムを開始。学生を派遣、受入れ、集中講義やインターンシップを通して1年間の共同研究を行った。日本英語模擬国連と筑波英語模擬国連に参加し、国際社会の実態と国際交渉力を学んだ。テレビ会議を通じ連携大学との成果報告会を行った。

### 2. 《修士レベル》日独韓共同修士(デュアルディグリー)プログラム(TEACH)

平成25年から始まった日独韓の3大学デュアルディグリー体制が整備されてきた。学生は渡り鳥方式で各大学の授業及び特別講演や公開セミナーに参加し、中間発表を行いながら修士論文をまとめている。

### 3. 《博士レベル》現代日本国際比較研究(履修証明)プログラム(COMPAS - CJS)

ヨーロッパ4大学連携大学より計5名の学生を受入れ、筑波大生とともに人文学・社会科学に関する講義を履修した。それぞれの研究テーマに応じて学外での実地研修や、外部教員からの指導等も組み入れた。また、筑波大生4名をヨーロッパへ派遣し、日欧の国際比較研究を進めた。指導体制についても、協働教育の観点から連携強化に努めた。

## ■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

(TRANS開始式)



〈欧州・東アジア協働教育プラットフォーム形成フォーラム〉



### 【日本文化発信交流プログラム】

被爆者証言の世界化ネットワーク(NET-GTAS)へのテレビ会議にて参加(H26.1)、日本模擬国連への参加(H26. 6)

### 【日独韓学術交流プログラム】

TEACH公開セミナーの開催(H26. 7、H27. 3)

### 【欧州・東アジア学術ネットワーク推進プログラム】

「欧州・東アジア協働教育プラットフォーム形成」パリアフォーラム(H27. 3)

## ■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

### 1. 日本人学生の派遣

JLCCにおいて、ボン大学へ1名、リュブリャナ大学へ2名、モスクワ市立教育大学へ1名、カ・フォスカリ大学へ1名の学生を派遣。TEACHでは、ボン大学、高麗大学へ計14名の学生を派遣。COMPAS-CJSは、リュブリャナ大学、ボン大学、フランシュコンテ大学へ計4名の学生を派遣した。

### 2. 外国人留学生の受入れ

JLCCはリュブリャナ大学2名、モスクワ市立教育大学1名、カ・フォスカリ大学2名、ボン大学1名の学生を受入れた。TEACHは、ボン大学、高麗大学計14名の学生を受入れた。COMPAS - CJSは、リュブリャナ大学、ベルリン自由大学、フランシュコンテ大学計5名の学生を受入れた。

	H23	H24	H25	H26	H27
学生の派遣	2	9	17	23	23
学生の受入	0	11	17	25	23

注)H23～H26は実績、H27は計画。

## ■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

### 1. 派遣する日本人へのサポート

派遣する日本人学生に対して、留学先のアカデミックカレンダーや単位制度の相違について十分な事前指導や各教育組織と連携をとって留学中の状況を把握し、必要なサポートを行う。研究においても連携大学との協働体制のなかで指導を行う。

### 2. 受入留学生に対する語学支援とキャリアパス形成支援

留学生受入れ開始に向けて、グローバル・コモンズや留学生センターとの連携強化したサポートを行い、学生ビザや保険に関する生活支援、日本語補講等の学習支援を提供、人文社会科学研究科におけるキャリアパス形成支援教育を実施している。

## ■ 構想の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開・成果の普及

### 1. プログラム内容の一般公開

年度末に外部アドバイザー委員会を行い、プログラムについて客観的に評価頂き、充実を図った。また筑波英語模擬国連の一般公開授業や近隣高校との連携強化につとめ、プログラムの外部発信と周知を図った。

### 2. ホームページの更新

随時、日本語・英語によるホームページ更新を通じて、各プログラムの内容や実施した国際交流について公開し、プログラム普及につとめている。

# 大学の世界展開力強化事業 H27取組概要 筑波大学

【構想の名称】(選定年度23年度(タイプB-Ⅱ))

人社系グローバル人材養成のための東アジア・欧州協働教育推進プログラム

【プログラムの目的・養成する人材像】

「現代日本」をテーマに日欧韓の大学間パートナーシップを強化、日欧韓の成熟社会の持続的発展と東アジアの安定に貢献できる次世代のグローバルリーダー人材養成を行う。

【構想の概要】

学士課程から博士課程まで一貫した東アジア・欧州協働教育プログラムを構築し、国際社会の中で日本の役割を発信する表現力、異なる価値観をまとめる先導力、東アジア・欧州が共同して問題解決に取り組む国際協調力、国際社会の現場で活躍するための行動力を総合的に涵養する。

## ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

### 1. 《学士レベル》日本語・日本文化コミュニケーター養成(履修証明)プログラム(JLCC)

ヨーロッパ4連携大学と筑波大学の間で学生の派遣・受入れを行い、集中講義やインターンシップを実施。各連携大学と筑波大学の学生による1年間の共同研究ではテレビ会議システムを活用し連携大学全体で中間発表、成果報告会等を行い協働指導体制強化を図った。

### 2. 《修士レベル》日独韓共同修士(デュアルディグリー)プログラム(TEACH)

日独韓の3大学デュアルディグリー体制のもと、学生は渡り鳥方式で各大学の授業及び特別講演や公開セミナーに参加し、中間発表を行いながら修士論文をまとめ、平成27年9月に3名、平成28年3月に6名が修士号を取得し、プログラムを修了した。

### 3. 《博士レベル》現代日本国際比較研究(履修証明)プログラム(COMPAS - CJS)

ヨーロッパ4大学連携大学より計5名の学生を受入れ、筑波大生とともに人文学・社会科学に関する講義を履修した。それぞれの研究テーマに応じて学外での実地研修や、外部教員からの指導等も組み入れた。また、筑波大生3名をヨーロッパへ派遣し、日欧の国際比較研究を進めた。指導体制についても、協働教育の観点から連携強化に努めた。

〈欧州・東アジア協働教育プラットフォーム形成リユブリャナフォーラム(H27.11)〉



## ■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

〈COMPAS授業風景〉



### 【日本文化発信交流プログラム】

被爆者証言の世界化ネットワーク(NET-GTAS)へのテレビ会議にて参加(H28.2)、日本模擬国連への参加(H27. 6)

### 【日独韓学術交流プログラム】

TEACH公開セミナーの開催(H27. 8, H28. 3)

### 【欧州・東アジア学術ネットワーク推進プログラム】

「欧州・東アジア協働教育プラットフォーム形成」リユブリャナフォーラム(H27. 11)

## ■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

### 1. 日本人学生の派遣

JLCCにおいて、ボン大学へ1名、リユブリャナ大学へ2名、モスクワ市立教育大学へ1名、カ・フォスカリ大学へ2名の学生を派遣。TEACHでは、ボン大学、高麗大学へ計6名の学生を派遣。COMPAS-CJSは、リユブリャナ大学、ボン大学、フランシュコンテ大学へ計3名の学生を派遣した。

### 2. 外国人留学生の受入れ

JLCCはリユブリャナ大学2名、モスクワ市立教育大学1名、カ・フォスカリ大学2名、ボン大学1名の学生を受入れた。TEACHは、ボン大学から5名の学生を受入れた。COMPAS - CJSは、リユブリャナ大学、ベルリン自由大学、フランシュコンテ大学計5名の学生を受入れた。

	H23	H24	H25	H26	H27
学生の派遣	2	9	17	23	28
学生の受入	0	11	17	25	22

## ■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

### 1. 派遣する日本人へのサポート

派遣する日本人学生に対して、留学先のアカデミックカレンダーや単位制度の相違について十分な事前指導や各教育組織と連携をとって留学中の状況を把握し、必要なサポートを行う。研究においても連携大学との協働体制のなかで指導を行う。

### 2. 受入留学生に対する語学支援とキャリアパス形成支援

留学生受入れ開始に向けて、グローバル・commonsや留学生センターとの連携強化したサポートを行い、学生ビザや保険に関する生活支援、日本語補講等の学習支援を提供、人文社会科学研究科におけるキャリアパス形成支援教育を実施している。

## ■ 構想の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開・成果の普及

### 1. プログラム内容の一般公開

年度末に外部アドバイザー委員会を行い、プログラムについて客観的に評価頂き、充実を図った。また筑波英語模擬国連の一般公開授業や近隣高校との連携強化につとめ、プログラムの外部発信と周知を図った。

### 2. ホームページの更新

随時、日本語・英語によるホームページ更新を通じて、各プログラムの内容や実施した国際交流について公開し、プログラム普及につとめている。